都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
（3年制写真科総合写真研究専攻(昼間部)）

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	現代写真論	120	○	120	★	120	
実習	スタジオ演習	120	○	120			
実習	写真表現演習Ⅰ	120	○	120			
実習	写真表現演習Ⅱ	120	○	120			
実習	写真撮影基礎演習／ファインプリントⅠ	120	○	120			
実習	画像処理Ⅰ	120	○	120			
実習	画像処理Ⅱ	120	○	120	★	120	
実習	画像処理Ⅲ	120	○	120			
実習	フォトプレゼンテーション演習Ⅰ	120	○	120	★	120	
実習	フォトコミュニケーション演習	120	○	120			
実習	スタジオライティング	120	○	120			
講義	総合写真研究ゼミⅠ・Ⅱ	240	○	240	★	120	
講義	ゼミナール	240	○	120			
実習	作品制作演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	360					
講義	映像表現論	120	○	120			
講義	写真美術史	120	○	120			
実習	デザイン演習	120	○	120			
実習	ポートレート演習	120	○	120			
講義	フォローアップ講座	120	○	120			
講義	メディア表現論	120	○	120			
実習	テクニカルライティング	120	○	120	★	120	
実習	映像制作演習	120	○	120			
実習(選択)	Web表現演習		○	120			選択科目のうち4科目を選択し受講
実習(選択)	マガジンメイキング						
実習(選択)	文章表現演習Ⅰ		○	120			
実習(選択)	風景写真演習		○	120			
実習(選択)	フォトアート演習		○	120			
実習(選択)	デジタル表現演習		○	120			
実習(選択)	ムービー制作演習		○	120			
実習(選択)	ダークルーム		○	120			
実習(選択)	フォトクリエイティブ演習		○	120			
実習(選択)	写真創作演習Ⅱ		○	120			
実習(選択)	ルポルタージュ演習	480	○	120			
実習(選択)	ビジュアルデザイン		○	120			
講義(選択)	写真史		○	120			
講義(選択)	写真科学		○	120			
講義(選択)	編集出版論		○	120			
講義(選択)	ドキュメンタリー写真論		○	120			
講義(選択)	英会話		○	120			
講義(選択)	メディア論		○	120			
講義(選択)	美術造形論						
講義(選択)	社会学		○	120			
講義(選択)	異文化交流演習(留学生必修)		○	120			
総授業時数		3,600		4,920		600	
卒業に必要な授業時数		3,600					

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部1年生

科目名	現代写真論		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鳥原　学		

授業概要

写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につきません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見ること。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。毎授業後に授業レポートを提出し、理解を深めます。これらを通じて、受講生の写真を「見る」能力と「撮られる」側のことを考える能力を身に着けます。

到達目標

授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして『教養としての写真全史(筑摩選書)』を使用します。

授業計画

	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)
	2	演習	カメラの楽しみを知る(三葉堂寫眞機店)
	3	講義	イントロダクション「カメラとこの社会」
	4	講義	ポートレイト「写真の社会的役割」
	5	講義	ポートレイト「理想と現実」
	6	講義	スナップショット「手軽な写真」
	7	講義	スナップショット「”決定的瞬間”以降」
	8	講義	ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」
	9	講義	報道とドキュメント　1「記録と宣伝」
	10	講義	報道とドキュメント　2「印刷メディアとジャーナリズム」
	11	演習	ワークショップ(写真集の見方の指南)
	12	講義	報道とドキュメント　3「フォトジャーナリストの主体化」
	13	講義	広告写真　1「消費社会の原動力」
	14	講義	広告写真　2「産業化と社会へのメッセージ」
	15	講義	広告写真　3「音楽産業の拡大と写真の影響」
後期	1	講義	芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」
	2	講義	芸術と写真②「ストレイトフォト」
	3	演習	写真展観覧
	4	講義	芸術と写真③「アヴァンギャルド」
	5	講義	芸術と写真④「日本の「芸術写真」」
	6	講義	芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」
	7	講義	芸術と写真⑥「現代写真の性質」
	8	講義	ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」
	9	講義	ファッションと写真②「多様性の受容」
	10	講義	写真と身体表現①「ヌード、ネイキッド、ポルノ」
	11	講義	写真と身体表現②「ヌードの変化」
	12	講義	.写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐって」
	13	演習	ワークショップ(プリントスタディ)
	14	講義	自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」
	15	講義	自然と写真②「生態観察と文化人類学的視点」

評価方法

授業レポートの質と期末のレポート課題。出席回数は厳守。　注意：課題に不正（webからのコピペ、他人が書く）が発覚した場合、出席回数の如何にかかわらず落第とします。

テキスト 参考書

『教養としての写真全史(筑摩選書)』。各自購入のこと。

講義の特徴 教員紹介

視聴覚教材を使用しながら、様々な作家を紹介する講義形式を基本とするが、学生との対話なども取り入れる。また授業ごとに学生はレポートを記入・提出する。担当教員は1993年から写真弘社にある写真ギャラリーアート・グラフ運営担当し、様々な展覧会を手掛けた。1998年からフリーになり、現在は写真研究者、写真評論家として様々な雑誌などに寄稿し、また写真関連の書籍も多数出版している。写真表現や写真家に関する豊富な知識に基づいて、写真家やカメラマンとして必要な写真をみる能力を身につけるための授業を展開する。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制2年 総合写真研究ゼミ

科目名	総合写真研究ゼミⅠ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	菅沼　比呂志		
授業概要 到達目標	表現者としての基礎能力を高め、技術を身につけることを目指します。短期(A)・中期(B)・長期(C)課題と三つの課題制作を通して、自分なりの作品作りのプロセスを考え、その作品にあった見せ方・プレゼンテーションを探ります。前期は、短期(A)・中期(B)課題を通して、コンセプチュアルな作品作りを考え、複数の視点・方法論を持ち、より幅のある表現ができるようなスキルの取得を目指します。後期は長期(C)課題のフィニッシュとゼミ展（リアル or オンラインは未定）に向けての準備を予定しています。また、先人たちの作品にも触れ、手法を参照、研究しながら、自らの作品作りに生かすことも考えます。 参加者の意欲や習熟度にあわせて授業内容を見直していきます。 【到達目標】 ・写真（他人の写真）や、自分の作品について、自分の言葉で語り、考えられる ・自分なりの美意識・世界観などを構築できる ・複数の作品作りのプロセスを身につける		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	前期授業内容の説明。自己紹介。
	2	演習	1年次の作品と春休みの課題発表（A、B、Cゼミ合同）
	3	演習	1年次の作品と春休みの課題発表（A、B、Cゼミ合同）
	4	面談・演習	個人面談（中長期課題検討）・短期(A)制作
	5	面談・演習	個人面談（中長期課題検討）・短期(A)制作
	6	面談・演習	個人面談（中長期課題検討）・短期(A)制作
	7	演習	作品合評会～短期(A)
	8	講義	作品合評会～短期(A)
	9	講義	作品合評会～短期(A)
	10	演習	展覧会見学
	11	講義	作家・作品研究
	12	演習	作品合評会～中期(B)
	13	演習	作品合評会～中期(B)
	14	演習	作品合評会～中期(B)
	15	演習	作品合評会～中期(B)
後期	1	ガイダンス・面談	後期ガイダンス、個人面談（長期課題検討）・長期(C)制作
	2	面談・演習	個人面談（長期課題検討）・長期(C)制作
	3	面談・演習	個人面談（長期課題検討）・長期(C)制作
	4	ガイダンス	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(ゼミ展ガイダンス・役割決定)
	5	演習	作品合評会～長期(C)
	6	演習	作品合評会～長期(C)
	7	演習	作品合評会～長期(C)
	8	演習	展覧会見学
	9	講義	作家・作品研究
	10	ガイダンス	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(展示作品プレゼン＆タイトル決定)
	11	演習	作品合評会～長期(C)
	12	演習	作品合評会～長期(C)
	13	演習	作品合評会～長期(C)
	14	演習	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(展示作品＆レイアウトプレゼン)
	15	演習	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(搬入)

評価方法	課題の内容と出席数で評価します。また、期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。
テキスト 参考書	
講義の特徴 教員紹介	講義形式を基本とするが、学生とのディスカッション、対話なども取り入れる。担当教員は若手アーティストを支援するギャラリー「ガーディアン・ガーデン」の立上げに参加。以後、若い世代の新しい表現を求めた公募展『ひとつぼ展』（’92～’08年）や『1_WALL』（’09年～）の運営のほか、中国・平遥国際写真フェスティバル、韓国・東江写真フェスティバル、テグ・フォト・ビエンナーレ、台湾・Young Art Taipei等でも展覧会の制作やポートフォリオレビューのレビュアーをこなす。現在もキュレータとして、様々な展覧会の運営に携わっている。その経験から現代作家、写真家育成に向けた授業を展開する。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	テクニカルライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	赤坂 トモヒロ		
授業概要 到達目標	この授業では、より実践的で応用的なスタジオワークや商品撮影のライティングを学びます。いわゆる「ブツ撮り」の税密なテクニックを身につけることが到達目標です。これは、写真分野に関係なく大変な強みとなります。前期は基本のおさらいと与えられた課題をこなしくていくことを中心に進め、後期は自らテーマを設定して作品を撮っていくことを中心にしつつ、講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高めます。同時に、ディレクターやクライアントのオーダーに応える撮影という実践を行います。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提示し、個別に講評を行います。また、動画撮影やドローン、VRなど、フォトグラファーに新たに求められるようになりつつある技術・知識についても実機を用いて実践・紹介していきます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業内容の説明	オリエン、講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。
	2	基本のおさらい①	缶の切り抜き撮影を通じて切り抜き写真の基本を復習
	3		
	4	基本のおさらい②	ボトルの切り抜き撮影を通じて透過物の切り抜き写真の基本を復習
	5		
	6	課題撮影①	講師の提示する課題作品を模写する
	7		
	8	課題撮影②	講師の提示する課題作品を模写する
	9		
	10	課題撮影③	講師の提示する課題作品を模写する
	11		
	12	課題撮影④	講師の提示する課題作品を模写する
	13		
	14	動画撮影①	インタビュー動画の撮影を通して、動画撮影の基本を学ぶ
	15	動画撮影②	ジンバルやドローンなど各種動画撮影機材に触れ、それらの特性を学ぶ
後期	1	作品撮り①	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する
	2		
	3	作品撮り②	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する
	4		
	5	作品撮り③	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する
	6		
	7	作品撮り④	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する
	8		
	9	作品撮り⑤	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する
	10		
	11	作品撮り⑥	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する
	12		
	13	作品撮り⑦	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する
	14		
	15		

評価方法	出席状況および課題の提出状況等
テキスト 参考書	講師が適宜用意する。
講義の特徴 教員紹介	実際にスタジオにてライティングしながらの実習授業を基本とする。担当教員は大手広告制作会社(株)アマナに所属し、独立し、その後にフリーランスのフォトグラファーとして、独立。ムービーとスチールの両方の撮影ができるフォトグラファーとして活躍中。クライアントのオーダーにこたえることができるフォトグラファー育成に向けた授業を展開する。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制3年

科目名	画像処理Ⅱ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	羽立　孝		
授業概要 到達目標	”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。 個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。 それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge
	2	LightRoom	Lightroomの使い方
	3	CaptureOne	CaptureOneの使い方(テザー撮影)
	4	Photoshop	レイターの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要
	6	パス①	パスの概要
	7	パス②	パスの選択、使い方
	8	選択範囲	色
	9	選択範囲	輝度
	10	ブラシ	ブラシ概要
	11	トーンカーブ	覆い焼き・焼き込み
	12	トーンカーブ	濃度
	13	トーンカーブ	カラー
	14	テスト	前期内容
	15	回答	
後期	1	CaptureOne	CaptureOne現像
	2	スマートオブジェクト	概要
	3	スマートオブジェクト	変形
	4	スマートオブジェクト	フィルター
	5	スマートオブジェクト	応用
	6	描画モード	概要・スクリーン
	7	描画モード	乗算
	8	描画モード	乗算
	9	描画モード	オーバーレイ
	10	描画モード	オーバーレイ
	11	描画モード	カラー
	12	背景	背景処理
	13	レイアウト作成	Photoshop・Illustrator
	14	テスト	後期内容
	15	回答	

評価方法	出席および授業態度
テキスト 参考書	世界一わかりやすいPhotoshop 操作とデザインの教科書
講義の特徴 教員紹介	パソコン室での実習授業を基本とする。担当教員はフリーランスのレタッチャーとしてまたフォトグラファーとして、活躍しています。数々のフォトグラファーの撮影したファッション写真や広告写真をレタッチ（画像処理）し、最終的な写真に仕上げています。 これまでつちかってきた高度なレタッチ技術や現場での経験を活かし、レタッチ技術の応用を学ぶ授業を展開しています。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制1年

科目名	フォトプレゼンテーション演習Ⅰ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	フジモリ メグミ		
授業概要 到達目標	この授業では、フォトプレゼンテーション（写真の編集や展示などの作品を見せる方法等）についての、基礎的な知識を身につけることを目指します。 前期はたくさんの展示会を見学し、展示の方法を学びます。展示方法の違いによって、作品の印象が変わっていくことを理解できるようにしましょう。 後期は作品作り・ポートフォリオ制作をあわせて行なっていきます。８階ウォールギャラリーでの展示などを通して、意図を正確に伝えることが出来る効果的なプレゼンテーションを学びましょう。 通年のカリキュラムを通じ、様々な展示方法、プレゼンテーション方法を習得し、作品の目的に応じた効果的な展示を行える技術を身につけることが、この授業の到達目標です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	ガイダンス/授業説明/自己紹介
	2	実習制作	フォトスクラップの制作　持ち物→ノート・雑誌や新聞（スクラップに使用できそうな素材）・のり・はさみ/カッター
	3	課題発表	フォトスクラップ発表・展示準備　各自5分程度の発表を想定して準備してきてください
	4	展示作業	フォトスクラップの展示作業
	5	実習制作	様々な展示方法を学ぶ　対象の展示会を見学①「TOPコレクション」
	6	↓	レクチャー・マットカッターの使い方
	7	↓	抜き寸の計算方法・額装の基本的な知識
	8	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ②「樋上秦幸展」
	9	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	10	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ③「ワニがまわる　タムラサトル」
	11	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	12	実習	額装した作品を使って釘打ちの実習
	13	↓	↓
	14	実習制作	レクチャー・紙の種類によって見え方の変わるプリント・比較
	15	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ④「アレック・ソス　集められた落ち葉」
後期	1	実習	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	2	実習	水張の方法
	3	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑤「マンレイと女性たち」
	4	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	5	実習制作	作品のPDF化について　WEBで作品を展示する
	6	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑥
	7	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	8	講評	″写真表現演習Ⅱ″で制作した作品をもとに展示プランなどの考察
	9	↓	展示プランの作成・発表
	10	↓	展示模型の作成
	11	↓	展示模型の作成・発表・投票
	12	実習制作	″写真表現演習Ⅱ″で制作した作品をweb上で発表する
	13	↓	↓
	14	↓	選考会・まとめ
	15	準備	展示会準備

評価方法	出席率/授業態度/写真への愛情や熱意をもとに、総合的に評価します。
テキスト 参考書	必要な物は事前に連絡します。忘れ物はしないようにしましょう
講義の特徴 教員紹介	担当教員は写真家として、数多くの作品を発表しており、写真集の発刊や写真展の開催をコンスタントに続けている。また2020年度にはエプサイト(EPSON)の年度賞を受賞。同じく自主運営ギャラリー「komaギャラリー」を立上げ、経営している。これらの経験をもとに、撮影してきた作品の講評と、実際に提出するレポートの評価、手を動かして作業をしながら写真を人に見せる工程を身に着けることが中心の授業を展開する。